



平成30年2月14日

各位

会社名 株式会社小僧寿し
代表者名 代表取締役社長 小林 剛
(JASDAQコード: 9973)
問合せ先 経営企画部室長 毛利 謙久
(電話番号 03-5719-6226)

特別損失の発生並びに通期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

この度当社において下記の通り特別損失が発生致しますので、概要をお知らせするとともに、平成29年2月14日付「平成28年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」にて公表しました、平成29年12月期(平成29年1月1日～平成29年12月31日)の連結業績予想と実績値に差異が生じたのでお知らせします。

記

1. 特別損失の計上について

1) 減損損失の計上 : 17百万円

当社が運営する「茶月 森下店」が立地する販売環境の悪化により、営業損失が継続したため、今後長期間にわたり回復が見込めないと判断致しました。当該店舗及び同様に営業損失が継続し、今後長期間にわたり回復が見込めないと判断される店舗の固定資産の回収可能価額について、資産価値をゼロとして、帳簿価額総額 17,882千円を減損損失として特別損失に計上致しました。

2) 閉店店舗にかかる閉鎖損失引当金の計上 : 16百万円

当社が運営する「小僧寿し」、株式会社スパイシークリエイトが運営する「茶月」の店舗閉鎖にかかり、16,574千円を閉鎖損失引当金として計上致しました。

2. 平成29年12月期 連結業績予想と実績値との差異（平成29年1月1日～平成29年12月31日）
（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円銭)
前回発表予想 (A)	5,686	64	69	64	2.16
実績値 (B)	5,420	△325	△330	△429	△14.44
増減額 (B-A)	△266	△389	△399	△493	-
増減率 (%)	△4.6%	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (平成28年12月期通期)	5,461	△83	△73	△150	△5.07

3. 差異の理由

連結売上高における業績予想修正の内訳は以下の通りです。

(1)直営事業	持ち帰り寿司事業	△230百万円 ・既存店売上が計画の93%で推移
---------	----------	-----------------------------

直営部門の持ち帰り寿司事業では、競争激化に伴う売上高の減退を改善するために、「お寿司」の御提供に留まらず、揚げ物商品や海産物惣菜等のデリカ商品の販売を推進する事で、「お寿司」以外の中食需要に適う店舗へと移行を進めておりますが、当期における売上高への寄与は限定的でありました。そのため、売上高の減退を改善するまでには至らず、売上高は計画の93%に推移し、直営部門の持ち帰り寿司事業における売上高は計画比230百万円の減収となりました。

損益における業績予想修正の内訳は以下の通りです。

営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益への乖離要因について

(1)直営事業	持ち帰り寿司事業	△193百万円（営業利益） ・既存店売上の減退 ・マグロ等海産物及び米等の原材料費の上昇 ・業務統合システムの費用増加
(2)連結子会社	株式会社スパイシークリエイト 株式会社けあらぶ 介護サポートサービス株式会社	△133百万円（営業利益） ・阪神茶月、スパイシークリエイトにおける既存店売上の減退 ・株式会社けあらぶ、介護サポートサービス株式会社における介護事業の経営改善費用

直営部門の持ち帰り寿司事業においては、既存店売上の減収に加え、当社主力商品であるマグロの想定以上の高騰や、その他海産物商材、米等の原材料費の高騰の影響による仕入原価の上昇、業務統合システムの再導入に伴うシステム費用の増加が減益要因となりました。また、当初予定外でありました、不採算店舗の減損損失計上、閉鎖実施店舗の閉鎖損失引当金等の特別損失を計上したことも減益要因となっております。

連結子会社においては、株式会社スパイシークリエイトにおける既存店売上高が低調に推移した点、介護事業において、運営施設の利用者稼働率を早期改善するための改善費用が発生している点が、減収減益の要因となっております。

上記に記載する要因により、営業利益は業績予想の 69 百万円から 325 百万円の営業損失、経常利益は業績予想の 64 百万円から 330 百万円の経常損失となりました。また、「1. 特別損失の計上について」に記載する特別損失が発生致しますので、親会社株主に帰属する当期純利益は、64 百万円から 429 百万円の親会社株主に帰属する当期純損失となりました。

以 上